

「クリニカルエビデンス・コンサイス issue 16 日本語版」

葛西 龍樹 監訳

東大大学院教授・医薬政策学

津 谷 喜一郎

「Clinical Evidence」(CE, クリエビ)は英国医師会出版部(BMJ Publishing Group)が作成している全世界的に定評のあるEBM支援ツールである。以前、他社からフルテキスト版の日本語訳が3回発行されたが、諸事情によりその後発行が途絶えていた。このたび医学書院から、原書第16版の“コンサイス版”が日本語版として発行されたことを、まずは歓迎したい。

クリエビの原書は、IT技術を利用して複数のメディアと構成で提供されており、そのことも革新的ではあるのだが、その中での日本語版の本書の位置づけがわかりづらくなっている。ここでは、本書の位置づけを中心に述べよう。

クリエビは1996年6月から、毎月更新されるオンライン版と、半年ごとに改訂される冊子体(フルテキスト版)が発行されてきた。さらに2002年12月発行の第8版からは、エビデンスの要約のみを掲載したコンサイス版の冊子体が発行された。この“3本立てスタイル”は2006年6月発行の第15版まで続く。しかし、年々記載内容が増大しあまりに厚くなりすぎたため、フルテキスト版の冊子体は2006年12月発行の第16版から廃止された。このため詳

細なデータまですべてを掲載した“フルテキスト”はオンライン版のみで参照可能となり、冊子体の発行は簡潔なコンサイス版のみに一元化された。さらにこのコンサイス版は2007年から「BMJ Clinical Evidence Handbook」と名称が変わり、版番号(issue number)もなくなった。

今回の訳は原書第16版のコンサイス版(すなわち名称としては最後の“コンサイス版”)を基にしている。本書では臨床に携わる医師にとって一番知りたい部分、すなわちエビデンスの要約部分のみを掲載し詳細なデータは省略されている。日々多忙な医師にとっては、知りたいことのみがすぐわかる本書の構成はありがたい。しかし原書コンサイス版では文献が掲載されておらず、“Please refer to clinicalevidence.com for full text and references”とオンライン版の参照を誘導されるのみである。クリエビの日本人読者は、おそらくはエビデンスの基になった文献を知りたいのではないだろうか。そこで、本書ではオンライン版からの文献が掲載されている。さらにフルテキスト版第15版の用語解説(glossary)の訳もつけてある。このようにコンサイス版をそのまま翻訳出版するのではなく、日本

語版読者の便宜を考えたつくりであるのがうれしい。

本書では日常よく遭遇する全26領域226疾患について、その臨床上の疑問に答えるかたちですべての治療的・予防的介入の効果が“有益である”“有益である可能性が高い”“有益性と有害性のトレードオフ”“有益性に乏しい”“無効ないし有害である”“有益性不明”の6つのカテゴリーに分類されている。“有益性不明”が多いが、むしろそれがわかることが有用である。介入効果が不明なのは、自分の知識の不足ではなく、エビデンスの不足によるものだと知ることができるからである。

EBMの実践とはいっても、時間もなく、文献検索や批判的吟味(critical appraisal)などなかなか行えないのが普通である。本書はsystematic searchとpre-appraisalによって臨床の場での意思決定を支援するツールである。読者は本書に示されたエビデンスを基に個々の患者への適用性を判断すればよい。一人でも多くの読者が本書を利用することで、よりよい医療を提供する助けとされることを望みたい。

●A5 頁1,432 定価11,550円
(本体11,000円+税5%)

——医学書院 刊(☎03-3817-5657)